

授業概要

学習とは、経験によって生じる比較的永続的な行動の変容」とであるとされる。学習心理学の対象は、学校の勉強に止まらず、日常生活の様々な場面で見られる行動をも含む。本講義では、学習に関する身近な現象を取り上げながら、学習心理学の理論と方法、その応用について講義する。後半は、学習と言語の関連領域について、人がどのようなプロセスで言語を学ぶのか、現在も論争が繰り広げられている言語獲得のメカニズムについて学ぶ。授業の中で簡単な心理学実験を体験することで、学習・言語心理学および心理学全般への理解を深めていく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：学習心理学とは？ 学習の定義、行動の測定法など
第 2 回	学習とは：動物の学習と人間の学習比較、馴化と鋭敏化、経験の効果 他
第 3 回	学習の仕組み：古典的条件づけの基礎
第 4 回	学習の仕組み：古典的条件づけの手続き
第 5 回	学習の仕組み：オペラント条件づけの基礎
第 6 回	学習の仕組み：オペラント条件づけの手続き
第 7 回	学習の仕組み：オペラント条件づけにおける強化と罰
第 8 回	条件付けからの応用：学習性無力感と動機付け
第 9 回	条件づけの臨床的応用：行動療法
第 10 回	様々な学習：観察学習ほか
第 11 回	言語と学習：知識
第 12 回	人はいかにして言語を身につけるのか(1)：オペラント条件づけによる学習モデル
第 13 回	人はいかにして言語を身につけるのか(2)：生得的制約説
第 14 回	人はいかにして言語を身につけるのか(3)：社会的相互作用説 他
第 15 回	言語獲得の臨界期と第二言語学習
第 16 回	学期末試験（筆記）

到達目標

- (1) 心理学における学習とは何かを理解し、基本的な学習の仕組みと過程について正しい知識を身につける。
- (2) 身近な事例を用いて様々な学習形式を理解し、臨床や教育場面における応用を学ぶ。
- (3) 学習心理学と言語心理学の関連領域を学び、言語の知識を得る。

履修上の注意

学習・言語心理学における基本的な知識を吸収するように努めること。「学習」と「言語獲得」の関係や「学習理論の臨床応用」に興味のある学生の受講を期待する。本講義では、理解を深めるために授業中に簡単なワークショップやレポートを課すことがある。遅刻や欠席に注意すること。

予習・復習

講義の最後に予習・復習のポイントを解説する。授業中に指示した用語や興味を持った用語、理解が十分でない内容は各自で確認しておくこと。講義で扱う内容が多岐にわたるため、分からないことをそのままにしておかないこと。学期中に数回程度、復讐のための課題を課すことがある。

評価方法

評価は、授業に 2/3 回以上出席し、授業時間内に実施する課題（ワークショップやレポート）を行い、かつ最終試験を受験した者に対して行う。最終試験の成績 70%に、平常点（受講態度および課題）30%を加えて総合的に評価する。

テキスト

使用しない。必要に応じて参考文献の紹介と資料の配布を行う。